

## 13. 家村(川源)家文書調査

渡邊 幸奈

### 1. 概要

家村（川源）家文書は京都府八幡市石清水八幡宮の神人の旧家である家村家に伝来した文書群である。2021年3月、所蔵者が京都府立山城郷土資料館伊藤太氏に同文書群に関する相談を行い、6月に同資料館にて本学特任講師竹中友里代が資料を実見した。その後、10月に竹中及び本学教員東昇が資料を借用し、府立大へ搬入した。文化情報学研究室では2022年12月から文化情報学実習Ⅰ・Ⅱ他において同文書群の調査を実施している。

調査日程 2022年12月14日

調査参加者 東昇（教員）、竹中友里代（特任講師）、上村香乃、滝澤和湖（以上、博士前期課程2回生）、正瑞千幸、長谷川巴南、瀧野覚生、原田宗周（以上、博士前期課程1回生）、井上泰良、今関航士朗、武田知奈、谷澤洋祐、渡邊幸奈（以上、3回生）

### 2. 内容

家村（川源）家文書は2箱構成である。箱1は上段に3杯、下段左右に1杯ずつ、計5杯の引き出しが設けられた懸硯で、罫紙・横帳などが多く収納されている。現時点では19世紀初頭から明治期にかけて作成された土地売買証文や勘定帳、地券証などが確認できており、これらを調査することで当該期における家村家の経営・経済について明らかにすることができるだろう。

箱2は側面に「御朱印」の文字と三つ葉葵紋が描かれ、御綱曳神人補任状などが木箱1～5と共に収納されている。御綱曳神人は石清水八幡宮の遷宮などの祭礼の際に御鳳輦の轅の先にとりつける綱引役として代々奉仕していたとされる。箱2は、形状・寸法から寛文5年（1665）以降に数名で構成された組にまとめて発給された縦紙の徳川將軍朱印状を管理するために作成された朱印箱であると考えられる。また、蓋上部には持ち手があり、組内を輪番で持ち運ぶことを想定して誂えられた。家村家はかつて石清水八幡宮領内に居住しており、慶長5年（1600）に徳川家康から朱印状の発給を受けていた可能性が指摘できるものの、同文書群から当時の朱印状は確認できなかった。

現在は箱の現状記録と外形の写真撮影、一部の番号付与が終了している。今後は資料の写真撮影・目録作成が終了した後、ラベル貼りを実施する予定である。



写真1 家村家文書調査の様子

#### 編集後記

フィールド集報は、刊行当初より Adobe 社の InDesign を利用して組版作業を手作りでおこなっている。InDesign の取り扱いは、歴史学科文化遺産学コースのうち、考古・建築・地理の実習メニューに含まれ、本書の一部については、そうした実習のなかで学生が組んだものとなっている。

今年度のフィールド調査においても、各地で多くの方からのご理解とご協力を賜った。ここに改めてお礼申し上げる。歴史や文化遺産にかかる調査は一人では決して成しえないということを、今後も常に意識するように努めたい。(う)

---

京都府立大学文学部歴史学科

## フィールド調査集報 第9号

編集・発行 京都府立大学文学部歴史学科

〒606-8522 京都市左京区下鴨半木町 1-5

発行日 2023年3月30日

印刷 株式会社 北斗プリント社

〒606-8540 京都市左京区下鴨高木町 38-2

---